舞鶴小学校
学 校 通 信
文責
校長 小林史治

羽ばたく子

2020. 6. 9 №3

※学校だよりのタイトル『羽ばたく』は，甲府市出身の宮沢和史さんに作詞作曲していただいた，舞鶴小学校の校歌の歌詞の一節です。「ふるさとを愛し、羽ばたく子に」なって欲しいとの願いをこめてタイトルとしました。

子ども達の笑顔が戻ってきました

臨時休業のあいだ子ども達の生活指導や学習指導、また教科書や教材の配布等、保護者の皆様には、ご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。おかげさまで、２４日にはピカピカの１年生を迎えて入学式を、２５日には子ども達と一緒に始業式を行うことができました。３ヶ月ぶりとなりますが、子ども達の素敵な笑顔が学校に戻り、教室では子ども達の優しいあいさつや授業に向かう直向きな眼差しが溢れていました。

子ども達を迎えるにあたり、三密を回避する方法、手洗いや消毒の徹底、咳エチケットとマスクの着用など、教職員で、与えられた環境と条件の中で今できる最大限の対策を考えて参りましたが、８日からは給食も始まりました。北九州市での学校内クラスター発生の事案をみても、これを機に、子ども達の感染防止対策をより一層しっかりと行っていく必要があると考えています。

このような中、既にお知らせしましたが、甲府市全体で本年度の水泳指導が中止となったことなどを含め、今後の学校教育につきましては、昨年度実施したものが中止になったり、大幅な変更を加えたりと、これまでの学校の姿と大分異なる「新たな学校の姿」となると思います。つきましては、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、状況へのご理解とともに、引き続き本校教育へのご支援とご協力をお願いいたします。

笑顔溢れる入学式

本年度は、６４名の新入生を迎え、あたたかい雰囲気の中で入学式を挙行することができました。思い出のスナップを看板の前で撮る時、密にならないよう「足形」を用意しました。どのご家庭も「足形」の意味を理解していただき、間隔を空けての「ハイポーズ」となりました。この後、ビニル越しですが、玄関で受付をしました。リボンをつけて子ども達は、立派に式を行いました。

「マスクでも『良い表情』」の始業式

始業式当日は良い天気で、玄関では教務の先生方が笑顔の子ども達を迎えました。入り口に「足形」を貼り、下駄箱に対応する玄関扉で、学年毎に混み具合に合わせて子ども達の数を調節しました。全校の子ども達が体育館に集合すると三密は避けられませんし、１年生との対面式も行いますので、始業式は校庭で行うことにしました。合間合間に給水タイムを設け、大人の話を省略するなど式の簡略化を図りながら実施しました。その中で、手を伸ばして握手できない距離が三密をさけるには必要なことも確かめました。裏面に当日の新聞記事がありますのでご覧下さい。

少しずつ学校生活に慣れてきました

３ヶ月に及ぶ臨時休業でしたが、２週間は午前中の授業だったため、無理なく子ども達は学校生活に慣れることができたと思います。１ｍの距離間隔を掴むために「足形」を設置しましたが、違和感なく子ども達は並ぶことができつつあります。図書室には子ども達が大勢いましたが、スムーズに本の貸し借りができました。図書館に入るときは手の消毒をする、記録は机の上のパーティションを使う、本の貸出返却は足跡の上に並びシールド越しに行う、返却された本はアルコールを湿した布で拭く、などの新しい手順をしっかりと守っていました。「本は心の栄養」です。子ども達の「思い遣る心」を醸成するために、たくさんの本を読んで欲しいと思います。なお、５・６年生は、昨年度末にできなかった部分も学習しました。また、甲府市の授業配信には本校の６年担任が参加しましたが、配信して授業は終わりではなく、もちろん６年は「線対称」の学習もしました。今後は、全学年の１学期「国語・算数」が配信される予定ですので、予習・復習にご活用下さい。

HP には、子ども達の学校での様子も載せてありますので、こちらもご覧下さい。

ありがとうございました

先日、６年生の保護者から「低学年の子ども達に使って下さい。」と手作りマスクを１０枚いただきました。とても可愛いマスクでした。こんな時だからこそ、あたたかい気持ちになりました。いただいた手作りマスクは、保健室で保管し、マスクを忘れてしまった子ども用等に活用したいと思います。ありがとうございました。

今月の１コマ

１ｍ間隔を空けての
発育測定

体の接触をしない休み時間の遊び

机間巡視用フェイスシールド
をつけての外国語授業

毎日新聞　5/26(火)

マスクでも「良い表情」

厳戒態勢の新学期　県立校など再開

新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた県立学校や多くの公立小中学校が25日、再開した。始業式や入学セレモニーでは感染対策を徹底するなど厳戒態勢の中、約2カ月遅れの新学期がスタートした。【山本悟、金子昇太】

新型コロナ

県立高校全30校（定時制含む）はこの日、一斉に学校を再開させた。市川、増穂商、峡南の各高校を再編し、市川三郷町に今年度開校した青洲高校（生徒数275人）は、新型ウイルスの感染拡大で中止になった入学式に代わる「入学セレモニー」を開いた。4月以降、パソコンを使った遠隔授業が行われてきたが、新入生が一堂に顔を合わせるのは初めて。生徒たちは全員マスクを着け、緊張した面持ちで体育館に入場した。

保護者や来賓を招待せず、生徒は1・5メートル間隔で並ぶなど「3密」対策を講じたセレモニーで、望月豊治校長は「3校の伝統を受け継ぎ、前向きな気持ちで本校の歴史に一歩踏み出してほしい」と式辞を述べた。

工業科の石川匠さん（15）は「ものづくりを勉強し、将来は自動運転の車を作ってみたい」と夢を語った。

生徒が通学で利用するJR身延線の混雑時間帯を避けるため、当面の間、始業を50分遅らせ、授業も1クラスの生徒を2教室に分散させて実施する。

青洲高校の入学セレモニーであいさつ文を読む生徒代表。感染対策のため、生徒は間隔を空けて並んだ＝市川三郷町で

公立小中学校も、既に再開している甲斐山村や、今月末までの休校延長を決めている上野原市、山梨市を除く24市町村で再開した。

甲府市立舞鶴小（甲府市丸の内2）では、感染対策のため、始業式を体育館ではなく校庭で開いた。約340人の児童は学年ごとに時間をずらして校庭に集合し、前後左右に約1・5メートルの間隔を空けて座った。校歌斉唱や新任教諭のあいさつなどを省略し、式は約40分で終了。本格的な授業は26日に再開されるが、甲府市では6月5日まで授業は午前中のみとなる。

6年の天野葵生さん（12）は「久しぶりの学校でとてもうれしかったけど、寂しかった」と話した。小林史治校長（57）は取材に「子どもたちは学校に来るのを心待ちにしている様子で、みんな良い表情だった。長期間、家にいたことでストレスを抱えている子どももいるかもしれないので丁寧に対応したい」と話した。

校庭で始まった甲府市立舞鶴小の始業式＝甲府市で

集団下校で帰りました

感染数は減りましたが、コロナ禍が終焉したわけではありません。体調が良くないときは、むりをせず、体調が戻ってから登校させて下さい。